

## 来春、原子力共同大学院開学

東京都市大・早大 産業界より期待の声聴く

東京都市大（旧武蔵工業大学）と早稲田大学による原子力専攻共同大学院の来春開設を記念する「未来エネルギーフォーラム」シンポジウムが十一日、早大キャンパス（東京・新宿区）で開催され、低炭素社会実現に向けた原子力の役割と人材育成について、産業界も交え議論を深めた（写真）。また、シンポジウムに先立ち、同大学院の入試説明会も行われた。

両学による共同大学院設立に向けては、四月に「大学間交流に関する包括協定書」が締結、七月には文部科学省への設置届出がなされているほか、カリキュラム体制についても、演習・実験・講義科目、指導に当たる教授陣が概ね固まりつつあり、開設への準備が着々と進んでいる。

シンポジウムで、基調講演を行った近藤駿介・原子力委員長は、日本の原子力開発利用の現状と課題を概観し、その中で、人材育成については、国の重点施策として、国際的に魅力ある専門教育の取組を推進する必要を訴



えるなどした。また、電気事業連合会、東芝、三菱重工、日立GE、日本原子力研究開発機構からは、今後の原子力事業・研究開発の展望と、求められる人材についてそれぞれ述べ、期待をかけた。

本共同大学院では、原子炉の所有・運転管理に経験・実績のある東京都大と、加速器工学に強い早大との連携に加え、企業、研究開発機関、官公庁とも一体となつて、技術面のみならず、安全面、倫理面、リスク管理の指導にも力を入れ、高い能力を有する人材育成を目指すことを理念に掲げている。入学生員は、博士前期課程三十名、同後期課程が八名。

無断転載禁止

著作権は原子力産業新聞に帰属します

転載承認済

東京都市大学グループ  
学校法人 **五島育英会**